

インド大使が善光寺を参拝されました

宮原 豊 (9組)

2021年5月19日、駐日インド大使サンジェイ・クマール・ヴァルマ閣下、グンジャン・ヴァルマ大使夫人、並びにヴィヴェーカナンダ文化センター（VCC）所長シッダールト・シン教授が長野市の善光寺を参拝されました。

善光寺は日本にある最古の仏像と言われるインド毘舍離(現ヴァイシャーリー)で鑄写された「一光三尊阿弥陀如来像」を御本尊としています。また、インド・サルナートの初転法輪寺の仏伝壁画を描いたことで有名な野生司香雪(のうすこうせつ)画伯による「善光寺由来」の壁画が雲上殿(納骨堂)にあります。1951年(仏教渡来1400年)に、香雪の縁もあり、またビルラ財閥や藤井日達師等の日印関係者の支援を得て、インド政府より善光寺に白い聖牛3頭が寄贈されましたが、このように善光寺は日印友好交流史において重要な役割を果たしています。少し白牛の話をしめると、横浜に到着後に上野動物園において検疫を受け、多くの人々の歓迎の中を浅草寺までパレードして、その後上野駅から貨物列車に乗せられ小諸市の布引観音に着きました。そこからトラックに乗り換え、「牛に引かれて善光寺参り」の道を辿る沿道や到着した善光寺参道で集まった大群衆により歓迎を受けました。

この度、インド大使の一行は善光寺の関係者と歓談、善光寺の起源や歴史について説明を受け、本堂にて御本尊に参拝しコロナの収束を祈念しました。最後に、善光寺雲上殿(納骨堂)において香雪の壁画と、インドの聖牛の遺骨が納められている牛の像を訪問されました。今回のインド大使の善光寺参拝の様子は地元メディアにも取り上げられたそうですから、お聞きになった方もおられるかもしれません。

ところで、話は変わりますが、壁画制作中の香雪は善光寺大勧進(天台宗)住職の清水谷恭順師(浅草寺)と親しくされていました。恭順師は別所・常楽寺の半田孝海師の次男・孝尚(36期、後に浅草寺27代貫主)を養子に迎えましたが、この方は半田孝淳・天台座主(上田中学34期)の実弟です。上記のインド大使が善光寺を参拝する1か月ほど前、浅草寺清水谷尚順住職(孝尚師の孫)にお会いする機会があり、善光寺における香雪と恭順師の交流について話したばかりでした。香雪画伯の結ぶ仏縁が広がっていくことを感じます。

次ページにインド大使館提供の写真3葉

(21年5月26日)

ヴァルマ大使ご夫妻とシン教授（右）



雲上殿の壁画「善光寺縁起」



インド牛の遺骨の収められている石像

